

## 日仏東洋学会平成 26 年度総会講演

### (1)「エドゥアール・ビオとその業績」

森賀一恵(富山大学教授)

エドゥアール・コンスタン・ビオ (Édouard Constant Biot, 1803-1850)は、フランスの東洋学者である。有名な数学者、物理学者であったジャン・バプティスト・ビオ (Jean-Baptiste Biot, 1774 - 1862) の息子で、はじめは自然科学系の教養を積み、サンテティエンヌーリヨン間の鉄道敷設計画に技師として参画し、事業に打ち込んだ。鉄道敷設実現(1833)の後、失業すると、スタニスラス・ジュリアン (Stanislas Julien, 1797-1873) の下で古典漢語を学び、短期間で習得し、早くも 1835 年には、論文を発表し、その後も業績を積み上げていくが、中でも最もよく知られているのが、フランス語による『周禮』の全訳である。エドゥアール・ビオの生涯と業績について紹介する。

### (2)「日本における今後の禅研究を見据えて: 思想的アプローチからの探求」

Didier Davin(極東学院東京支部代表)

この十数年の間、中国における禅研究が目覚ましい成果を挙げている。禅の黄金時代と言われる唐代と日本に最も影響を与えた宋代のテキストが高い精度で明確に読まれるようになっている。これに比べて、日本禅宗文献の読解はまだ充分であるとは言い難い。20 世紀後半から世界的に知られる日本の禅研究は中世・近世・現代の三時期に大きく区分される。このなかで、中世についてはとりわけ闇のなかにあると言える。日本と海外の禅研究の過去と現在を考察したうえで、今後の課題を考えてみたい。

#### 【東洋文庫】

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-21 Tel. 03-3942-0272 (普及展示部 牧野)

※会場(講演室)は本館建物2階となります。(駒込駅・千石駅徒歩7分)

